

東日本大震災の支援

インタビュー① NPO法人福岡被災地前進支援 理事長 大神弘太郎

【団体情報】住所 福岡市城南区片江3丁目17-24 ☎ 092-400-0005 HP | <http://fhs.diver-sion.com/>

福岡からでも、被災地へ
できることがある

震災の一報を聞いたのは、実は海外旅行中でした。それから福岡県NPO・ボランティアセンターのホームページを活用してボランティア参加者を集め団体を結成し、帰国後に合流してすぐに活動を始めました。当初私は経験もなく、現地情報も全くない状況の中で、インターネットを通じてつながった人脈の縁で宮城県



南三陸町の支援を決め、まず生活必需品などの支援物資や、募金を集め現地に届ける作業を優先しました。それが落ち着いてからは福岡でもできる活動として写真洗浄を始め、参加人数延べ736人で5万枚の写真洗浄し、被災地に御返しすることができました。現在まで団体として11回、個人単位でも被災地に行き、「福岡のアツい想いと被災地を繋ぐ」活動を継続しています。

長期間で、人々を支えることの難しさ

膨大ながれきや廃屋の撤去などはもちろん進んでいるんですが、復興にはまだ長い時間がかかるでしょう。また物的な支援が終わり、人の心をどう元気にしたり安心させたりするかのソフト面での支援が重要になっていきます。私たちの団体も東北の方々のニーズに合わせた支援

私たちは必要とされる活動を、継続したい

活動を企画して実施しているのですが、ボランティアと被災者ではなくて「人と人」とのつながりを生むことの重要性、そして団体としては継続して支援を行うことの難しさに直面しつつあります。親切心から生まれたものが押し付けになってはいけないし、長い支援の中ではどこまでボランティアでやるべきなのか、線を引くのが難しい状況にも直面しています。



それでもNPO・ボランティアには、まだやれることはあると思います。団体としては当初のミッションである「被災地支援」の原点に立ち返ろうという主旨で何度もメンバー間で意見交換を重ねています。地元である八女の支援もやっていきたいし、私たちじゃないとやれないことがある。例えば前回の東北での活動では、社会人を中心に、探索が難しい場所にあえて向かい遺骨を拾う試みも実施しました。私自身がダイバーの資格を持っているので、子どもたちのために浜辺をキレイにする作業員を育てて派遣するなどの構想も持っています。今後も、現地で「必要とされること」を引き続きやっていきたいですね。



大 きな被害を記録した平成23年3月11日の東日本大震災、そして昨年7月14日に発生した九州北部豪雨。2年と半年が経過した現在もまだ復興の長い道のりの途中ですが、発生直後のインフラの復旧支援などでは各地から多くのボランティアが現地に結集し、さまざまな支援活動を行いました。

災害発生時には常に迅速な動きが注目されてきたNPO・ボランティアですが、緊急時に役立てるよう、普段から備える意識を持つことはとても大切です。今回の特集では、現在も積極的に被災地支援を行っている2つの団体に取材し、その言葉から改めてNPO・ボランティアにとって災害支援とは何か、必要とされているのかを考察してみました。

ボランティアの存在が、住民を勇気付ける

7月13日の夜に川が増水し、巨大な石が流されるほどの状態になりました。住民は当団体があった施設「えがおの森」の体育館に避難したのですが、道路の崩落、農地や住宅の水没、停電や断水などの被害が出ました。しかも柳川や八女なども巻き込んだ広範囲に及ぶ水害でしたので、当団体の人間だけでは道路復旧



と支援物資の輸送だけでも精一杯の状態でした。しかし1週間後にはインターネットでの呼びかけで数十人のボランティアが集まってくれたことで、復旧作業で疲弊した住民も大変励まされたようです。また地元笠原の復興には資金が必要なので、基金を立ち上げて寄附を呼びかける動きも早々に始めるなど、現在も地域と連携しながら団体全体で支援に取り組んでいます。

日常を取り戻すための、長い道のり

復興に至るには非常に厳しい状況です。現在は仮復旧の状態です。国の調査を経て河川や道路の工事に入りますが、今年の秋以降にならないと復旧工事は終わりません。さらに地元住民は自分たちの田畑を、多額の費用をかけて復旧するなど管理



や維持をしなければいけません。昨年末までに、延べ人数で2000人を超えるボランティアが笠原に入り、手作業での家の泥出し、用水路の復旧、田畑での細かい石拾いの作業などでは大きな力となりました。ですが、地元の方々はこれから普段通りの生活を取り戻さなければいけない。大変な道のりだと思えます。

農村をみんなで支える、それがミッション

やはり笠原の良さ、ここで農業を行う良さを広めることが大事だと思います。昨年「笠原まつり」などを開催したように、この状況をバネにして多くの人にこの土地を応援してもらえれば、農村崩壊の加速は防げるのではないかと思います。今回の件で地元の方々と連携が深まり、企業の支援の輪も広がりました。例えば今後は、笠原地区で生産するお米や農産物を都市の消費者が年間購入することで、農家を応援するシステムを構築するなど、新しい支援の仕組みをつくりたい。私たちの団体のミッションは「農家を応援すること」ですので、今後も都市と農村をつなぐ活動を続けていきたいですね。

九州北部豪雨の支援

インタビュー② 山村塾 事務局長 小森耕太

【団体情報】住所 一八女市黒木町笠原 9836-1 ☎ 080-8562-4558 HP | <http://h3.dion.ne.jp/~sannson/>



特別インタビュー 震災から2年、九州北部豪雨から半年

そのとき、私たちはどう動くべきか

緊急の事態が起こったとき、私たちNPO・ボランティアはどう考え、どう動くべきか。そのヒントとするべく復興支援活動に尽力する2つのNPO・ボランティア団体へ取材し、「発生時」「今」「これから」を語っていただきました。